

学生確保の見通し等を記載した書類

1. 志願者・入学者・倍率・定員充足状況等の推移

医学群医学類における、過去5年間の志願者・入学者等の状況は次のとおりである。

<地域枠>

		募集人員	志願者	入学者	志願倍率	定員充足率 (%)
平成 31 年度	推薦入試 (茨城県内対象)	22	85	23	3.9	104.5
	前期日程 (茨城県内対象)	4	20	6	5.0	150.0
	(全国対象)	10	8	2	0.8	20.0
	計	36	113	31	3.1	86.1
令和 2 年度	推薦入試 (茨城県内対象)	17	88	17	5.2	100.0
	前期日程 (茨城県内対象)	9	40	14	4.4	155.6
	(全国対象)	10	17	5	1.7	50.0
	計	36	145	36	4.0	100.0
令和 3 年度	推薦入試 (茨城県内対象)	18	64	18	3.6	100.0
	前期日程 (茨城県内対象)	8	30	7	3.8	87.5
	(全国対象)	10	18	2	1.8	20.0
	計	36	112	27	3.1	75.0
令和 4 年度	推薦入試 (茨城県内対象)	18	69	18	3.8	100.0
	前期日程 (茨城県内対象)	8	30	8	3.8	100.0
	(全国対象)	10	6	1	0.6	10.0
	計	36	105	27	2.9	75.0
令和 5 年度	推薦入試 (茨城県内対象)	18	69	18	3.8	100.0
	前期日程 (茨城県内対象)	8	51	8	6.4	100.0
	(全国対象)	10	16	9	1.6	90.0
	計	36	136	35	3.8	97.2

<医学類全体>

	入学定員	志願者	入学者	倍率	定員充足率 (%)
平成31年度	135	479	135	3.5	100.0
令和2年度	134	476	134	3.6	100.0
令和3年度	*129	498	120	3.9	93.0
令和4年度	*129	491	121	3.8	93.8
令和5年度	*129	510	128	4.0	99.2

*総合選抜の定員5名は除く

2. 学生確保の見通し

医学類全体の過去5年間の志願倍率は、3.5～4倍前後で推移している。また、地域枠学生の募集においても、3倍前後で推移している。

令和5年度の地域枠募集は、推薦入試で18名、前期日程試験で茨城県内対象の8名及び全国対象の10名の募集を行った。全体として3.8倍程度の志願倍率を確保でき、前期日程において合格者が17名あり、地域枠全体で定員36名中、35名充足した。（令和2年度は地域枠定員を充足）

令和6年度入試における地域枠学生の確保に向けて、筑波大学医学類の魅力（立地、総合大学での学生生活、教育カリキュラムの充実度、国家試験の合格率、卒後研修プログラムの充実度等）を発信するとともに、「中小病院ルール」及び全国対象における「診療科指定ルール」の撤廃、一般学生と同じキャリア形成が可能であることを広く周知する。（【資料1】を参照）

具体的には、ホームページ等での発信に加え、茨城県と共同で高等学校や予備校への説明を行っていく。令和4年度には、平成31年度から医学コースが新設された県立高校5校や本学医学類に入学実績がある高校に重点的に個別説明を行った。医学コースが新設された5校については、令和3年度から卒業生を送り出し始めたところであり、意識の高い学生からの志願者数の向上が大いに期待できるものと考えられる。（【資料2】、【資料3-1】、【資料3-2】を参照）

また、全国対象の充足率が低いが、令和2年度から、茨城県内対象への志願者は、全国対象と併願扱いになったため、柔軟に優秀な学生の確保が可能となっている。

さらに、個別学力検査等（前期日程）において、医学群医学類では「地域枠茨城県内対象」、「地域枠全国対象」、「一般枠（地域枠以外）」の3区分に分けて入学定員を設定した上で、地域枠と一般枠を別枠として選抜していたが、地域医療に貢献する意思のある志願者をより広く受け入れるため、令和5年度入学者対象の入学試験から一般枠志願者のうち希望する者について、地域枠全国対象との併願を可能としている。

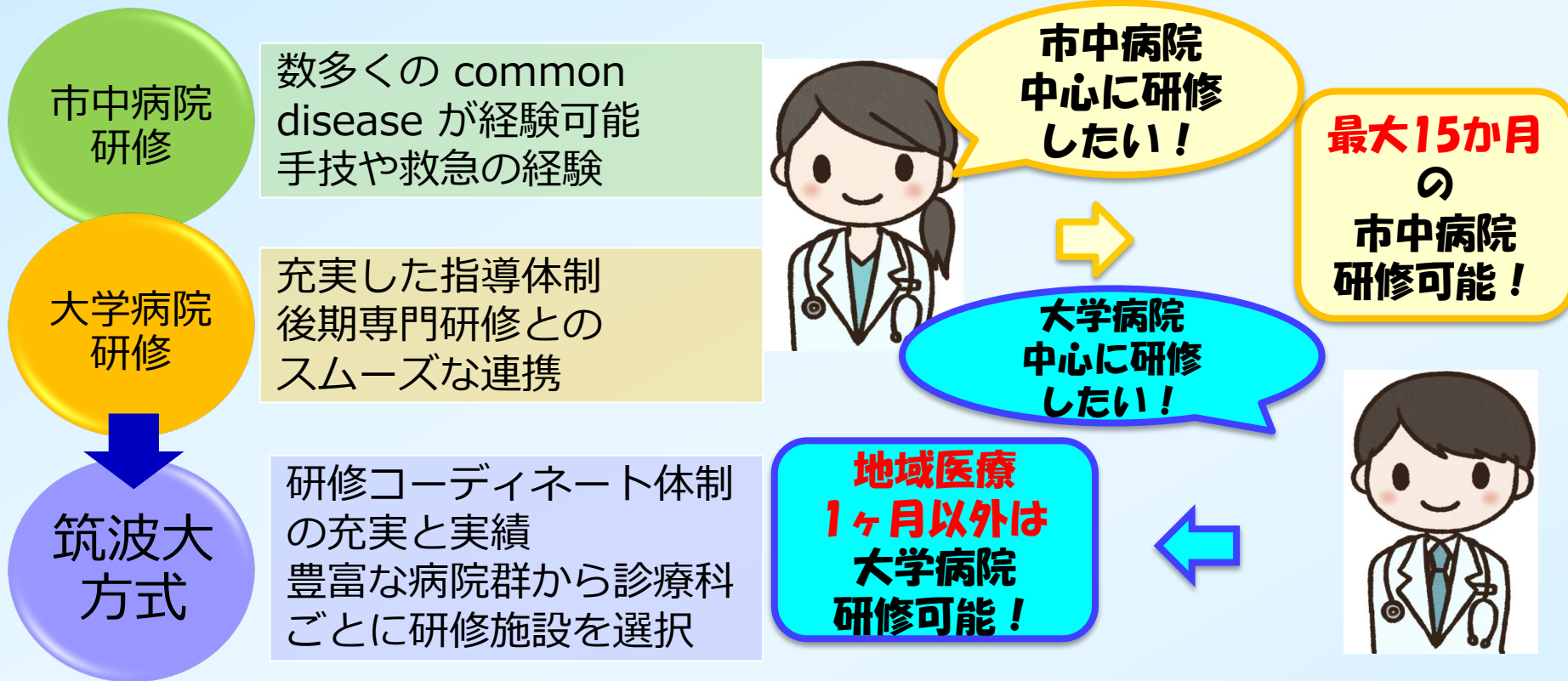
ただし、一般枠志願者で第二志望に地域枠全国対象を志望する場合は、以下の要件を全て満たす必要がある。

- (1) 将来、茨城県の地域医療に貢献する熱意と能力を有し、卒業後に茨城県が指定する医療機関等で指定された期間従事できる者
- (2) 茨城県が実施する『茨城県地域医療医師修学資金貸与制度』に応募する者

なお、併願の場合の選抜方法については第一志望を優先して選抜し、第一志望で合格とならなかった場合に第二志望の選抜の対象とする。

医師確保のための特徴ある大学の取り組み 選択性の高い研修プログラム

【資料1】



数多くの common disease が経験可能
手技や救急の経験

充実した指導体制
後期専門研修との
スムーズな連携

研修コーディネーター体制
の充実と実績
豊富な病院群から診療科
ごとに研修施設を選択

筑波大学地域医療教育ステーションとも連携

1年目 (筑波大学附属病院)												2年目 (地域医療教育センター)											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科						外科			外科			小児		産婦		精神	地域	選択					



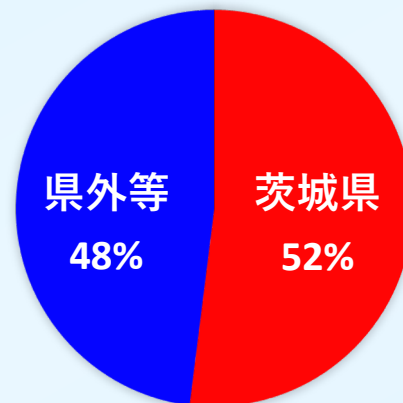
地域枠学生を確保するための取り組み(令和5年度以降)

出身地域別入学者数(令和2～4年度平均)

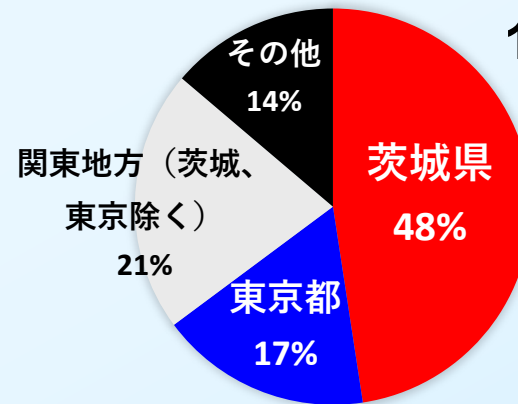
出身高校は
関東5都県で約8割
東京都が約1/3

出身高校所在県	入学者数平均	割合
茨城県	29.3人	23.5%
東京都	42.3人	33.9%
千葉県	10.3人	8.3%
埼玉県	5.7人	4.5%
神奈川県	9.3人	7.5%
合計	97.0人	77.6%

平成30年度～令和3年度
医学類卒業生の勤務状況
(n=502人)



卒業生進路調査
令和4年3月
(N=145人)



卒業生の約半数が茨城県に定着
1/3は東京都出身者だが、就職は1/6



東京都を初めとする関東圏の
高校を中心に地域枠(全国対
象)の受験生を募る

※進学・国家不合格者除く




地域枠学生を確保するための取り組み 県立高校における医学コースの設置

茨城県立高校・中等教育学校に

医学コースを設置!!!

「医志」を持つ者、来たれ!



水戸一高

土浦一高

並木中等教育学校

日立一高

古河中等教育学校

2019年度入学生から開始
40名×5校=200人

医学研究会

筑波大学医師が講演
筑波大学附属病院見学

積極的に県内学生を
筑波大学医学類へ
リクルートする



取り組みの広報活動



中学生・高校生の病院見学

- ▶ **医学コース設置の茨城県立高校・中等教育学校全5校**に対し、積極的に筑波大学医学類へリクルートする。
- ▶ 実際の医療現場を見学することで、医療に対する理解を深め、医師を目指す意識の高揚を図る。



令和5年度病院見学開催一覧

学校名	受講学生	受講人数
県立古河中等教育学校	4年次・5年次生	26名
県立並木中等教育学校	5年次生	11名
県立土浦第一高等学校	高校2年生	30名
県立日立第一高等学校	高校1年生	20名
県立水戸第一高等学校	高校2年生	35名



医師の学校訪問

- ▶ 医師の講話や医学生とのディスカッションを通して、医師という仕事について理解し、医師を志すきっかけをつくる。

R3年度

学校訪問19校

R4年度

学校訪問20校

R5年度

学校訪問17校



医学合同説明会

- ▶ 県の高次教育課・地域医療支援センター分室・総合臨床教育センターと連携し、医学部進学を志す県内の高校生に対し、模擬授業やワークショップ等を実施。医師という職業の理解や使命感を養い、将来の茨城の地域医療を担う人材を育成する。

R2年度

申込数 169名

R3年度

申込数 131名

R4年度

申込数 119名

